

本時のねらい

資料から読み取ったことを基に、根拠を持って台風の進路について理解する。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

端末を使うことで、画像資料が順次追加していくことができる。画像の変化から読み取れる気づきや予測、考察を繰り返すことで思考を重ねていきやすい。また、グループの意見をまとめていく際に、スライドを活用することで、試行錯誤をくり返しなが、容易に自分の考えをことができ、グループで学びを深めていくことができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ムーブノート（台風進路予想用） ・スライド（意見構想メモ用）

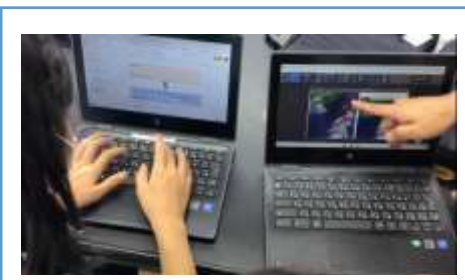
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○台風について知っていることを確認する。 ○日本付近の雲の動きと天気について確認する。 【写真1】 ・台風の進み方と天気の変化について予想するためにはどのような資料が必要かを考える。 ○課題を見いだす。 めあて「台風予報士になってみんなに伝えよう」 ・台風はどのように動き、天気はどのように変わるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像や映像を見ることで、台風の動きや台風の影響による雨の量を視覚的に振り返りができる。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○1枚の気象衛星の雲画像とアメダスの雨量情報（資料）から、その翌日、台風はどのように進み、天気はどう変わるのかを班で予想を立てる。 ・翌日の気象情報を追加し、自分たちが立てた予想と比較してさらに予想を進める。 ○いくつかの班の予想を発表させ、全体に共有する。 ○正しい進路を示し、班で立ててきた予想と照らし合わせる。 ・「広場」を見て、各班が立ててきた予想の過程を確認する。 【写真2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook上の地図に台風の予想進路を何度も書き換えられる。書き換えていく中で試行錯誤をくり返し、グループで学びを深めていくことができる。 ・最終的なまとめだけでなく、試行錯誤した過程も共有することができる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の振り返りをする ・ムーブノートのひろばに提出する。 【写真3】 	

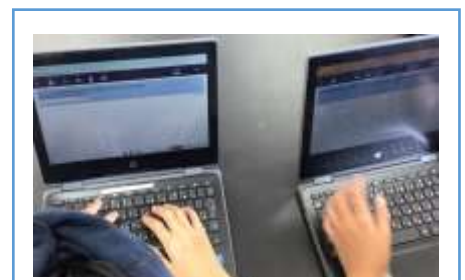
1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】日本付近の台風の雲の動きについて確認している場面



【写真2】台風はの進み方によって、天気はどう変わるのかを班で予想を立てている場面



【写真3】ふりかえりを書いている場面

児童生徒の反応や姿容

授業後も過去の台風の進路のデータに興味を持って調べていたり、ニュースなどで天気の情報をよく見るようになっていたり、台風や天気の変化についてすすんで学習する姿が見られるようになってきている。また、グループ活動を効果的に取り入れた結果、グループ内や全体へ自分たちの考えを伝えることや、自グループと他グループの考えを、台風の進路と雨の量に着目しながら比較することの意義を実感し、考察を深めようとする姿も見られるようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

こちらの思ったタイミングで情報を順次追加していくので、瞬時に全員にカラー画像が提示でき、新鮮な学びを生み出しやすい。
また、タブレットで児童の考えを教員が常に把握しながら、根拠を持って台風の進路を予想をしている子どもたちへの評価と、難しさを感じている子どもたちへの支援を早く行うことができた。